片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-01
小千谷市片貝町10367-4
TEL・FAX 0258-84-3246
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱
題字　黒崎敬淥氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

給食、市議会は共同に軍配

小林市議ふれあい公園に待った

安達議員は議会の解散説をチクリ

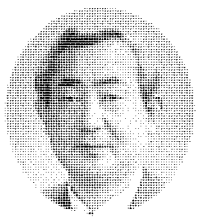
12月定例市議会が3日から開催され、15日には市政に対する一般質問が行なわれ、八人の市議が登壇したが、片貝町の市議は小林光紀市議と安達稔市議が質問に立った。最終日の19日には総務文教委員長の吉原正幸市議が、委員長報告した「共同方式に戻すべきとの修正案」が可決された。

市政に対する一般質問に立った小林市議は、「佐藤邸跡地は公園にするよりも北部地域センターにした方がよい」との論旨を展開、他の片貝出身市議や傍聴していた片貝住民は「公園とすることで当局の尽力をいただきながら、順調に進んでいるというのに、何をいまさらふり出しに戻すのか」と反発の声。また質問の後の再質問が、数名の担当課長に聞いてから広井市長に聞くというやり方だったので、複数の市議から「ルール違反」の指摘もあった。また、小林市議は中学校の給食問題に関する修正案の採決の際、退場していたことから「小林市議は広井市長と福祉センターと給食問題でとりひきしたのでは」の噂もささやかれている。

安達市議は一部に流布している「広井市長は給食問題で、思うとおり自校方式にならないと、議会を解散する」との噂をとりあげ、「現状では市長は議会を解散出来ない」との論旨を展開しながら、「市長はそのような発言をしたのか」と迫った。それぞれのやりとりの要約は次のとおり。

小林光紀市議

南部地区に福祉センター建設計画があると聞くが、その内容を明らかにせよ。片貝町も御多聞にもれず高齢化率が上昇している。現在永寿荘でデイサービスセンターを開設し、好評ではあるが「永寿荘が町の中心地にあればいいのに」との声が多い。市が公園目的で購入した佐藤邸跡地は町の中心地にある。現在の計画で建物の一部を残すとしてもトイレを作ったり改善改修に約二千万円かかるとのことであるが、後々「福祉センターをここに造ればよかった」ということになってしまう。隣接地に児童公園があるのだから、公園よりも永寿荘の機能も備えた北部福祉センターを造った方がよいと思う。



小林市議

広井庄一市長

南部地域福祉センターは、現在の克雪管理センターを一部改築して有効利用を図る計画で延床面積千五百平方㍍。うち新築部分は千平方㍍。建築費は三億円から三億五千万円で、平成11年度に建築費を計上予定。佐藤邸跡地については、片貝町協議会から公園用地として買収して、との陳情が出ており、それに沿って既に業者に基本設計を委託した。

安達稔市議

①米山市議によるとある市民から電話があり「12月議会に給食の補正予算が出る。もし否決されるようであるなら、議会を解散するとのことだ」という内容の話しだったとのこと。実は私も片貝中学校の創立五十周年記念式典で〝聞くところによれば〟と前置きする形で同主旨のことを尋ねられた。市長はそのような発言を本当にしたのか。議会の解散は㈠議会の自主的判断による解散、㈡住民の直接請求による解散、㈢非常の災害時、復旧に必要な経費を議会が削減する議決をした時、市長は議会を解散出来る、㈡議会が市長の不信任議決をした時、市長は対抗手段として議会を解散出来る、以上の四つのパターンしかなく、市長の権限は㈠と㈡の二つしかなく、現時点ではどれも可能性はない。このことをどう認識しているのか。

安達市議

②介護保険制度が平成12年4月に実施される。保険料をいくらにするかは自治体が条例で決めることになっている。保険料をとっておきながらろくなサービスが出来ない、という可能性もあるが、導入に向けての準備はどうなっているのか。介護支援専門員の養成、確保はどうなっているか。介護の必要度を決める要介護認定審査会はどのような構成となるのか。この大きな事業実施に向けての市長の決意はどうか。

広井市長

①市長の議会を解散する権限は安達市議の指摘のとおりである。よって今回の補正予算に関しては、議会の解散は考えられない。なお、私は議会の解散については全く話しをしていない。

小林市議

地元でも当局と話し合う窓口を設置して計画を検討していることから、他の目的に使用することは考えられないので理解を。

小林市議

北部福祉センターはどこに建てる予定なのか。

桜井福祉事務所長

まだ決めていない。今後検討して行く。

小林市議

建物をどのように利用しようと考えているのか。

木原都市開発課長

地元から残してほしい、との要望が強かったので、専門家に調査させたところ、耐用年数は充分あるので一部を残し、片貝町のやせかまど、朝陽館、耕読堂を初めとする郷土に関する資料の展示コーナーを予定している。

小林市議

土地の目的外使用は絶対ダメなのか。

簗田企画財政課長

基本的には用途の変更は出来ない。絶対ということはない。

小林市議

福祉センターは町の中心部の方が良い。資料館は市総合開発基本計画の中でもりこまれているのであるから、市内のあちこちに要らない。多くの住民が望むのなら、変更は可能か。

広井市長

佐藤家の遺徳を偲ぶことをも両立出来、多くの住民が望むなら流動的に考えて良いと思う。

主張

今年こそ佐藤邸の運用開始を

明けましてお芽出度うございます。

各位には健やかに初春を迎えられたこととお慶び申しあげます。

昨年は銀行や証券会社の相次ぐ倒産など、今までの神話を覆す大型の破綻が続き、景気もすっかり冷込んで消費も落込み不況感が身に沁みる一年であった。それでも新年の声を聞くと今年こそはといった淡い期待が湧いてくる。

さて懸案であった佐藤邸跡地問題も（仮称）ふれあい公園として協議会を受皿とした促進委員会もでき、成否はともかく曲がりなりにも市当局への要望も終り、今後はどう色付けをし運営していくか青写真を作成する段階に入った。恐らくこの三月頃までには発表出来るのではないか多くの町民は期待を寄せている。

ところが小紙にも報道されているように去る十二月市議会における一般質問の再質問で、公園などより有効利用が出来るからとの理由で、福祉施設として考えたほうがという水を差すような質問がなされ市長も佐藤家の遺徳を偲ぶことと両立できるなら変更してもといった主旨の答弁がなされた。

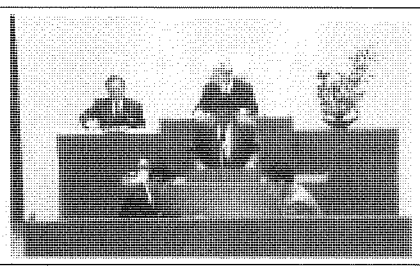
しかしもう話が持ち上がって二年あまり、アンケートをとるなど多くの人たちの意見を集約し、市側の説明も終り促進委員会もでき青写真を描くというこの期に及んで、何時できるとも全くあてもない白紙に戻すような話を持ち出されるのは理解に苦しむ。

勿論民主主義の世の中誰がどう意見を述べようと構わないが、もう少し協調性を考えてほしいものだ。片貝の歴史を振り返ってみるとこれと似たことが多くある。鉄道をはじめとし工場や病院誘致など自己主張を強調するあまり、意志統一ができず結局全てが無に帰し今日の体たらくとなった苦い経験を有している。この佐藤邸の問題はあとでどうかなるといった類の問題ではない。建物を壊したり、すっかり面影を失ってから、あの時遺しておけばよかったなどと悔やんでも後の祭りで、文化財や文化遺産の重要性はこの点にある。ふれあい公園として運用してみて利用する人も少なく費用だけが嵩んで、維持することが難しいとなってからでも決して遅くはない。何故ならそれほど小千谷市の財政に余裕はないからである。

少子高齢化が目前に迫っていることは事実でそれに対応した施策を講ずる必要は誰でも理解できる。さりとて建物を造ってそこに年寄を押込めるだけが福祉ではない。それら孤独な老人たちの心の絆をどうつなげていくか、ボランテアの活躍も必要だ。自然環境、交通状態、施設の利便性、財政的負担などじっくり時間をかけて構想を練るべきで、佐藤邸跡地でなくても片貝では候補地に事欠かない。

ふれあい公園も青写真が完成して終ったということではない。生かすも殺すも町民一人一人が何を協力・奉仕できるかにかかっている。町民の一致した力が試される年になりそうだ。

中学の給食は共同でよしと市議会決める



吉原市議の委員長報告

吉原正幸・総務文教委員長は、委員長報告の中で石坂和男議員が出した「広井市長が進めようとしている中学校給食問題の自校方式のための補正予算ではなく、平成九年度当初予算どおりの共同方式で行くべき」との修正案を報告。賛成、反対の討論の後、採決の結果14対8で修正案（共同方式）が可決された。片貝町の議員は吉原、安達両市議が修正案（共同方式）に賛成、小林市議はその時退席していた。関広一市議は議長であるため採決に加わらなかった。

市議会は教育的大差なし、これからの少子社会を考え、また財政面でも断然有利な共同方式に軍配をあげたが、広井市長はあくまでも自校方式実施に固執、修正案の予算は執行しないことを明言しているので、給食問題は、今後も様々な確執を呼ぶ気配濃厚とのこと。

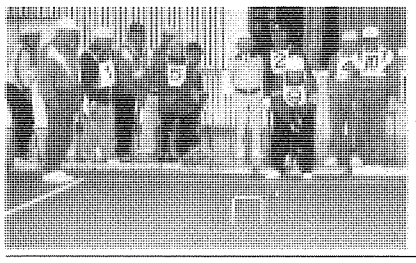
かたかい春秋

読者の皆様、あけましておめでとうございます。謹んで皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

片貝町に密着した話題提供と共に、様々な諸問題について一緒に考え、前向きな意見を述べて行く所存でありますので、本年も宜しくお願いいたします。▼さて、中学校の給食問題が十二月十九日の市議会で「共同方式で」との方向づけが出されたが、すんなりと行きそうにない雲行きのようだ。広井市長は議会で決めた修正案を良とせず、執行する気がないからだ。三月議会にかける新年度予算で、再び自校方式を盛り込む決意と聞く。そうなると今度は、議会としては可否を判断するのみで、「共同方式に変更を」と修正する権限はないのである。▼しかし、自校方式にそこまでこだわる必要が果してあるのだろうか。市長は公約を守り最大限努力したのだからそれで良いではないか。小出前市長が語っていた「小学校で自校方式を体験しているのだから、中学校で自校方式による教育はしなくていいのではないか」の意見に賛成である。▼中学生にもなれば、自校方式でも共同方式でも、教育的効果は大差ないと考える。ならばこれからの少子社会のことも考え、労務管理上も有効、財政面でも明らかに有利な共同方式の方に軍配をあげたい。議会制民主々義を重視して、速やかに、今年度の予算執行を広井市長に望みたい。広井市長が英断を下すならば、一挙に議会との仲もスムースとなり、市勢発展につながると思うのだが。▼それに広井市長が一番意欲を持っていると思われる福祉に力を振るえると思う。自校方式は必ずや将来の小千谷に足かせとなると思う。人件費だけでも大変な負担になるだろう。

真新しい室内マットで第1回片貝インドアゲートボール

使い心地は抜群、でも寒い…



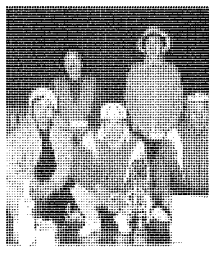
第一回片貝インドアゲートボール大会（片貝ゲートボール協会主催）は、3、4の両日片貝スポーツセンターで開催された。この大会は11月に市が片貝スポーツセンター専用に、人工芝の室内ゲートボールコートを購入、この〝コート開き〟として開催したもの。町内単位の十五チームが参加、三チームずつ五グループに分け、予選リーグ戦を行ない、一位になった五チームにより決勝トーナメント戦を行なった。決勝戦は第四ヤヨイBと鴻巣ヤヨイBの対戦となり、第四ヤヨイBに軍配があがった。

参加者達は「玉の走りぐあいが早くも遅くもなくちょうど良い。ただちょっと寒くて…」とちょうど初雪の降った日だっただけにそう語っていた。

五十嵐常雄・片貝ゲートボール協会長は「他のスポーツが使用しない日を連続して借りて、一日二、三チームで合同練習をやって行きたい。そうすればマットの出し入れに二十分ずつかかってもスムースに行く」と語っている。12月は16日～19日、23日～26日に合同練習会を行なった。

優勝―第4ヤヨイBチーム（相崎仁作、丸山幸治、相崎リツ、高橋初枝、吉井シゲ）

準優勝―鴻巣ヤヨイBチーム（小比田徳男、川上茂美、小林慶一、川上ハル、山賀ハツ）



▼議員定数削減―また今市議会で、塚田喜信市議から議員定数を現行の25人から23人に削減する議案が出され、革新市議等から反対の意見もあったが、採決の結果可決された。次の市議選から定員23名となる。片貝の小林、安達、吉原三市議共に削減賛成に回った。

パンジーの苗をデイホームに贈る

――片貝小児童が

片貝小学校の飼育栽培委員会（五・六年生）は、去る十二月十一日㈭「デイホームかたかい」を訪れ花の苗をプレゼントした。このパンジーの苗は、夏休みの終わり頃に種をまき、三月六年生が卒業する時期に花を咲かせようと一年生から六年生までの生徒が大切に育てているうちの一部を、当日全校生徒を代表して十三名の委員が、二十鉢を持参して「大切に育ててください」と一人一人に手渡していた。プレゼントされた老人達は「ありがとう、あなた達に負けないよう、立派に育てます」とニッコリ。

平成9年の10大ニュース

一位は中学校50周年記念事業

JA片貝町が町民のアンケートで決める

JA片貝町は平成九年管内の十大ニュースをまとめ、大晦日12月31日の有線放送の昼と夜の番組でこれを発表した。今回は町民300名から応募があり、全員に参加賞が贈られた。

①片貝中、千田中創立50周年記念事業挙行―新制中学校は揃って昨年創立五十周年を迎えた。管内の二校も節目の年でそれぞれ記念事業を行なった。特に片貝中は学校、PTA、同窓会、地域、東京片貝会が一体となり、11月16日に記念式典を挙行、東京片貝会が国旗掲揚塔を建立して寄贈、その他の記念事業としては正面玄関にモニュメント風の校門建立、前庭整備、記念誌を作成し全戸配布など総額五百数十万円で実施した。

②第一回JA片貝町健康ウォーク開催―5月11日に開催。緑の中の起伏に富んだ絶好のコースを設定、約200人が参加して心地よい汗を流した。参加無料、参加賞あり、東谷でトン汁サービスでいたれりつくせりの大会で大好調であったが、参加者からは「トン汁は東谷ではなく、ゴールで出してほしい」の要望が出ていた。

③五辺集団転作組合農林水産大臣賞受賞―五辺集団転作組合（内藤和人組合長、八十六戸）は、減反転作にそばの作付を選び、ブロックローテーションをとり入れ、とも補償などを実施して水稲栽培と大差ない収入を得ている。これらの努力が評価され全国そば生産優良地区表彰（㈳日本蕎麦協会主催）で最高賞の農林水産大臣賞に輝いた。受賞祝賀会は3月20日高梨振興会館で開催され、自分達の収穫そば粉を使って、須坂屋にそばを作ってもらい、須坂屋主人がその場でゆで、水がしたたるそば提供コーナーを設けたところ大好評だった。

④市議会議長に関広一氏就任

⑤第51回町民運動会種目大幅変更し開催

⑥片貝スポーツセンターに室内ゲートボールマット完備

⑦片貝中バスケ、バレー中越大会アベック優勝

⑧ミニバスケ「スーパーボーイズ」石川県で開催の、あすなろ杯に県代表として出場し、三位入賞を果たす。

⑨片貝伝統芸能保存会「片貝木遣り歌考」発刊

⑩花火太鼓「四尺大締太鼓」おひろめ

◀①11月16日の片貝中50周年記念式典

◀②盛り上ったウォーク

◀③五辺の祝賀パーティー

明日の農業を考える

JAの農業懇談会盛況

JA片貝町（佐藤仁組合長）は、農業懇談会を12月19日午後二時から、JA片貝町本所三階会議室で開催、熱心な討議が行なわれた。

JA新潟経済連中越支所の土田集荷対策課長は「最近の米穀情勢及び魚沼米販売対策について」のテーマで次の内容を話した。

「新潟のコシヒカリの品質、食味は平成8年産以上に向上し、地域別のバラツキも少なく高い評価を得ている。消費者からは〝日本一高いが、日本一おいしい米〟のイメージを持たれており、〝量は食べないが、その分おいしい米〟を求める熟年世帯が主要購買層となっている。流通業者は高い米であるため、利益の上がる米、即ち整粒歩合の高い米を要求している。これらのことからコシヒカリは高品質、良食味が絶対条件」。

北魚沼農業改良普及センターの高橋センター長は「魚沼米品質向上及び食味向上対策について」のテーマで次の内容を話した。

「魚沼産コシヒカリがおいしいのは、コシヒカリに合う土壌であり、豊富な水源があり、夏期に低温で清涼な潅漑水を利用出来ることである。今後更なる高品質、良食味米を生産するためには、有機質資材の投入、ケイ酸、リン酸質肥料等の施用による土づくり、魚沼地域専用肥料の開発、地区毎に対応した栽培管理の徹底を図ること」。

市役所農林課の大塚農政係長は「新たな生産調整の態様と稲作経営安定対策について」のテーマで次の内容を話した。

「小千谷市は今まで皆さんの協力により、生産調整をほぼ100％達成してきたが、来年はとんでもない生産調整面積が予想されている。まだ数字ははっきりしていないが、転作率25％以上になることは確実で、4年に一回は作らないということと同じ。これからは生産調整に応じることによって安定した補償金を得るか、全く生産調整には応じずに、個人で全て販路を見つけて行くか、二つの道を選択出来るようになった」。

小千谷地域農業共済組合の小野坂参事は「農業共済のこれからの役割について」をテーマに次の内容を話した。

「共同農薬散布などを主な事業のひとつに実施しているが、オペレーターの高齢化が進んでおり、今後、ラジコンヘリを使用した空中散布を推進するために、ラジコンヘリのオペレーター養成が課題となっている。また、二市三魚沼の共済合併を進めており、予定どおり行けば平成11年4月に合併になる予定」。

JA片貝町の山口生産課長から、資料に基づき平成10年分から農業所得標準による税務申告が新標準方式に変わることが説明された。

続いて全体討論では「ミニマムアクセス（最低輸入米）は米が余っているのに輸入しなければならず、加工米や飼料用、援助米として国産米に影響しないとされているが、本当にそう思うか」との質問に、大塚係長は「非常に苦しい質問。国は影響を与えていないとする見解をとっている。私個人としては何らかの影響はあると思っている。国に直接働きかけはしてないが、ことあるごとに県にはこのことは言っている」と答えた。「片貝は災害がほとんどなく、共済の世話になることはない。共済不用論もあるが、何とかならないか」の質問に、小野坂参事は「農林省に使用しない場合の掛け金を二割減にしてほしいと要望しており、本県は県内被害率が0.5％を下回るので、明るい見通しとなっている。ご理解を」と答えた。

年末ビッグサービス

商工会企画盛り上がる

片貝商工振興会（遠藤充会長）は、一昨年に引きつづき昨年年末の12月19日「年末ビッグサービスデー」を開催した。この日まる一日片貝商店街での買い物に対し、各店舗ごとの基準で抽せん券を発行、夜5時から9時まで三之町のヤマサ運輸車庫で抽せん会を実施した。また42店舗がこの日特別のサービスを実施し、盛り上げた。

抽せん会には400名前後が訪れ、1000本以上の抽せんが引かれ特賞の「現金5000円」30本は全て引き当てられた。はずれなしで、その他は全てラーメンだった。天候も晴れ12月としては暖かく、町民には好評の企画となった。

片貝ヒューマンウオッチング

吉井会長片貝町を語る

片貝町協議会長として東奔西走の活躍を見せている吉井陽氏に登場願った。本来ならばもっと早い時期に登場してもらうべきであったが、本人が遠慮していたのと、様々な事情により遅れたものの、ちょうど新年号で協議会長としての抱負などを聞くには絶好のタイミングとなった。

六十八歳。家族は長男、長女共独立しているため、現在は奥さんの京子さんと二人暮らし。京子さんには平成8年8月号で、読み聞かせの活動紹介で小欄に登場いただいている。夫婦での登場は初めてである。

昭和二十五年新潟第一師範学校卒業以来、教職の道をずっと歩み続け、平成元年三月、長岡市立山谷沢小学校教頭を最後に定年退職した。〝誰もが持っている長所や才能を見い出して伸ばしてやる〟を教育信条として貫いてきた。協議会とのかかわりは平成六年、四之町の町内会長として評議員になったのが最初。そして翌年四月の総会で突然協議会長に推されて就任。現在二期目（一期二年）を迎えている。

就任以来旧佐藤邸跡地の購入問題、片貝バイパスの早期完成などの大きな問題が目白押しで、持ち前のバイタリティーであたってきた。

特に佐藤邸跡地問題では、議論百出といった感じで様々な意見があり、苦労の連続であったが、それでもようやく市当局の方から、基本的な姿勢と原案が示され、地元の窓口となる〝片貝ふれあい公園建設促進委員会〟を協議会が主体となり、地元の団体長なども入れたメンバーで組織、具体的に動き出している。

佐藤邸跡地利用については、個人的な夢もあるが、あくまでも協議会長としてとりまとめの立場で、後々に悔が残らぬような利用方法を目指している。〝管理人をおく構想が浮上しているようであるが？〟（先月号二面既報）と質問すると「そうなると町民に全く負担がないというわけにはいかないが、有効利用するにはその方が良いと思う。詳しくは何もまだ決まってはいない」とのこと。また「今年中に全て完成は無理と思う。何年もかけて行なうことになると思う」とも。

〝誰にも公平に接し、自分の言動に責任を持つ〟を生活信条にしているが、協議会長としての職務まっとうにもそれを活かしながら〝市内外の人達に敬愛され、片貝に住む人や片貝出身者が誇りに思うまちづくり〟を目指している。片貝ふれあい公園もそのひとつとしての位置づけであることは言うまでもない。

〝最後に今年の抱負は？〟の質問に「片貝ふれあい公園の造成に町民からどのように進んで協力してもらえるかを推進すること。そして片貝まつりに協議会としてどのようにかかわったらよいかを明らかにすること」とキッパリ。「皆さんの協力をお願いしたい」といつもの笑顔で結んでいた。

県ジュニア美術展

第二十八回県ジュニア美術展覧会（県教委など主催）審査結果が発表され、片貝小学校三年の吉原祐太郎君が絵画部門で優秀賞を受賞した。

特賞、優秀賞など二千点あまりによる展覧会は、長岡展は四日から十五日まで県立近代美術館で開催される。入場は無料。片貝町の入賞は次のとおり。

《優秀賞》

▽絵画部門―吉原祐太郎（片貝小三年）

《奨励賞》

▽絵画部門―右黒誠也（片貝保育園、五歳児）、野中知美（片貝小二年）、吉井健人（片貝小五年）

▽デザイン部門―宮島沙紀（片貝小一年）

中越美術展

第三十四回中越教育美術展（中越教育美術協会主催）の入賞者が発表され、展覧会は十二月五日から七日まで長岡市の中央図書館で開催され、表彰式も七日同会場で行なわれた。片貝町の入賞者は次のとおり。

《特選》

▽大塚眞美（片貝保育園、四歳児）▽吉原加菜（片貝保育園、五歳児）▽石上大樹（片貝小学校一年）▽太刀川静（片貝小学校三年）

県議会傍聴

片貝町の高齢者学級「ヤヨイ大学」は、前期最後の事業として12月9日「県議会傍聴の旅」を実施した。参加希望者六十名は二台のマイクロバスに便乗して出発、午前10時からの県議会の一般質問を傍聴したが、議場に入るなり、中央一番前の席の木村一男県議を見つけて参加者等は大喜び。その後新潟ふるさと村、新潟日報社見学なども行なった。

ハローベイビー

○神林桃香ちゃん（四ノ町）
杏香ちゃん

パパ　豊さん（32才）
ママ　友子さん（33才）
平成9年1月14日生
第1子長女　桃香ちゃん（左）
現在の体重8kg身長70cm
第2子二女　杏香ちゃん（右）
現在の体重7.8kg身長70cm

Q名前の由来

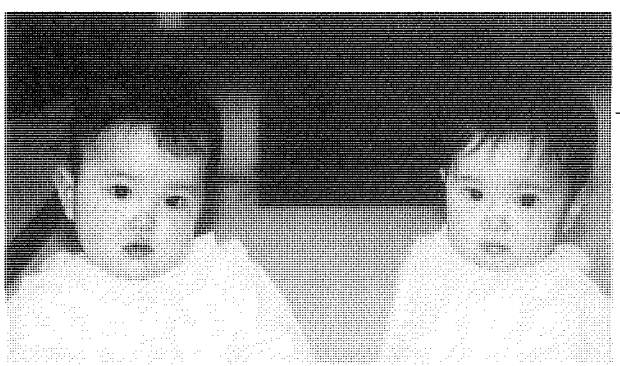
A特に由来はないのですが、女の子らしく、やさしそうなイメージがする様に考えました。

Qお子さんの様子

A最近は一人が立ち上がって、一歩・二歩すれば、もう一人も立ち上がって自慢そうに一歩・二歩と歩くようになりました。

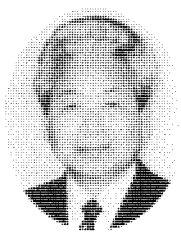
Qどんな子に育って欲しいですか

A仲良く、素直で、思いやりのある元気な子に育ってほしいと思います。



新春アンケート

関　広一市議



1、昨年の政治活動で印象に残ったこと

二期続いた小出市長が諸般の事情により引退することになり、六月に市長選挙が行われたことが強烈に印象に残っております。

この選挙戦の特徴は、候補予定者が記者会見をおこなっては消えたりし、前哨戦は大変わかりずらい状況を呈し、最終的には、現職の県議がくら替えして市長戦に出馬したにも拘らず、市議から転向した広井さんに大差で破れるという事態が生じ、市民はこの結果に大いに驚かされたものでした。

この選挙戦中、現広井市長は、中学校給食を自校方式に変更する公約を掲げて闘いを進めてきましたが、これが後に大きな政治問題へと発展していくこととなりました。

十二月議会において、広井市長は中学校給食の自校方式を補正予算で提案しましたが、これが議会で修正され、現行の共同方式でやるようにとの結果になり、問題を後に残すことになりました。この審議の過程で総務文教委員会は予算の修正を行いましたが、これは私の長い市議会議員生活の中でもいまだかって経験の無かったことであります。又、全国的に見ても補正予算の修正を委員会で行ったことは、大変珍しい出来事で特筆に値する出来事ではないかと考えております。

五月に市議会の議長に就任させていただいたことも私にとっては大きな出来事であり、全力を尽くして職務を遂行して参りたいと考えております。

2、今後の片貝に望むこと

片貝町は、いろいろな面で特色があり、素晴らしい街だと思います。

地理的な恵みもあろうかと思いますが、大きな災害が発生していないことも特色の一つであり、有り難いことと考えています。

また、まち興こしに関しましては、若者を中心に一生懸命な取り組みがなされており頼もしい限りでありますが、残念なことに、町全体をまとめて対外的に表明したり、行動する組織が整備されていないのではないでしょうか。

現在は、「町協議会」に実質的なご苦労いただいておるところですが、「町協議会」自体が内外共に正式に認知された組織でない点が残念でなりません。

私としましては、この「町協議会」を片貝町の代表機関として正式に位置付けすることが必要なのではないかと考えております。

「町協議会」で決定したことは、町全体の総意として町民が認知し、行動を共にしていくことが重要なことであり、このことが更に「町協議会」を強化していくことにつながっていくのではないかと考えております。

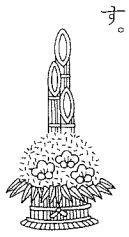
専門的な問題や課題については、その都度協議会内で「特別委員会」を設置するなり、その道に精通した人を選抜し、「プロジェクトチーム」を組織するなど、創意工夫することにより対応を図っていただければ更に素晴らしい片貝町が形成されるのではないかと考えております。

3、本年の抱負

私の新年に向かっての抱負としまして、市政全般に関しましては、より良い市民生活が確保されるよう、職責を通して頑張って参りたいと考えております。

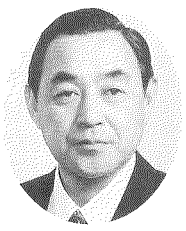
また、片貝地区に関しましては、佐藤邸跡の公園整備や新規事業として雪処理のため全町に流雪溝が整備されるよう努力して参りたいと考えております。

最後になりますが、夢としましては、「片貝でそばをつくり売り出す方法」を考えてみたいと思います。



新春アンケート

安達　稔市議



1、昨年の政治活動で印象に残ったこと

皆さまと共通しているかと存じますが、市政においては二期八年の小出前市長の引退が御座居ました。

市長選を巡っては様々な候補の名前が浮かびは消え、御案内のような市長選挙となり、下馬評とは裏腹に広井市長が誕生。その後は、新市長の提案により議会に提出された中学校給食の自校方式と既に決定をしているセンター方式。二者択一の論戦は目下継続中です。数年来の懸案であります佐藤邸の建造物と跡地の取り扱いが有りました。過去形として語るとすれば小出市長の引退が印象的でした。私は氏の堅実な手腕を評価し、三期目の出馬を働きかけておりました。

三月議会、私の一般質問のタイトルは〝市長選出馬について〟でありました。御本人からは「答弁の中で元気に出馬表明させてもらいます。頼みます。」と数日前まで話されておりましたが、結果は引退表明の場となる番狂わせがありました。後年、なぜそうなったかを述べます。中学校給食と佐藤邸の二つは目下のところ進行形ですが、印象に残ったことかと存じます。

2、今後の片貝に望むこと

約40年前に昭和の市町村合併時代がありました。ムラの境界線がなくなる大改革は三つ。明治と戦後と今日が三大改革とされております。

急速に、また、無理矢理に地方分権制度が押し進められており、並行して市町村の垣根を低くする広域化行政の推進。各地で動き始めた市町村合併の協議会。平山知事は介護保険事業は平成の市町村合併の起爆剤と発言。青年会議所は県内の町や村をなくし十四の市のみとする案を出しております。これは大ごとです。都市の外れになるのか、中心部に近くなるのか、住民のライフスタイルに係ってまいります。さて、話しは変りますがお隣りの越路町の総合計画に高速道のインター構想が有ります。既に〝新しい街づくり〟や道路計画などの都市計画はインターを基点に作成されております。これには越路町単独では国に働きかける意義づけや建設費用など厳しいものがあると考えます。お隣り同志として片貝町も全面協力、越路片貝インターとなるよう市に働きかける。インターを基点に道路、産業、住宅地などの街づくり、都市計画を練りあげる。

懐かしい響きとしてでなく〝かっては三島郡の雄と云われたまち〟らしい論議をお聞かせ戴けたらと存じます。

3、本年の抱負

議会での所属が社会土木委員会ですので所管事項について申し上げます。

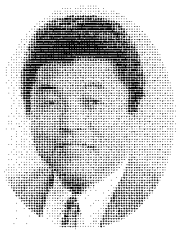
皆様の懸案でありました佐藤邸を北部地区屈指の都市公園に仕上げてゆきたいと考えています。

また、二年後導入の介護保険に備え北部地区が手薄などという事のない様、基盤整備計画に取り組みます。同じく所管事項として片貝地区流雪溝整備が着手されますので宜しくお願いします。

さて、今世紀もあとわずかとなりました。21世紀に向けての〝街づくり〟希望の21世紀となりますよう励んでまいります。本年も皆様からのご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、紙面をお借りして新年の御挨拶を申し上げます。皆様明けましてお目出度う御座居ます。本年も宜しくお願いいたします。

新春アンケート

吉原正幸市議



1、昨年の政治活動で印象に残ったこと

六月に行なわれた小千谷市長選挙も印象に残っていますが、私には今回の十二月定例市議会での中学校給食問題が一番強烈な出来事となりました。この問題に関しては自校方式か共同方式かで教育委員会や議会で十数年来議論されてきました。

私は以前給食関係の会社に勤務し魚沼地区ほとんどの学校調理室や共同調理場に出入りしており学校給食の理想的な形は自校方式であるという考えをもち一般質問等で当局に訴えてきました。しかし当局は自校方式と共同方式に教育面での大差はなく、当市の財政面等総合的に判断し中学校の給食は共同方式（センター）と決定、今年度三月議会で議決されました。

私も財政的裏付の無い理想論よりも多くの市民が望んでいる中学校給食の早期実現の為賛成いたしました。ところが六月の市長選で広井新市長が誕生し公約の一つとして中学校給食を自校方式に変更する補正予算を十二月議会に上程、しかし委員会審査の過程で当局の示した不明瞭な比較試算表や学校給食に対する教育上の見解の相違（市長と教育長）等が露呈、議決済の方針を一八〇度変える説明としてはあまりにもおそまつな内容でした。

結果はご案内の通り中学校給食は当初予算通りの共同方式に差し戻す修正案が賛成多数で可決されました。しかし私が驚いたのは次の日の朝刊に書かれた議会閉会後の記者会見での市長のコメントでした。「選挙のしこりだ。可決された修正案は執行せず、三月議会に再度、今回と同じ内容で提案したい」これは議会制民主主義への挑戦とも受取れます。現議員二十四人も市民の代弁者として選挙によって選ばれたものです。その議決結果を無視することは議会軽視と言うよりも市民無視の発言と言えます。

三月議会で議決され、この十二月議会で再度議決された事を執行するのは市長として当然の義務だと思います。皆さんはどう判断されるでしょうか。

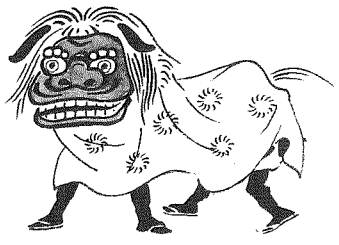
私にとって十二月議会は議会制民主主義の有り方や選挙公約、行政と議会等、改めて考えさせられ勉強になった議会でした。

2、今後の片貝に望むこと

片貝は片貝まつりを初めとして様々な行事やスポーツイベント等が自主的に運営されそれぞれの特色をもって行なわれる異色の町と言えるのではないでしょうか。他の町村では必死になってもなかなか成功しない町おこしのイベント等がこの町ではいとも簡単に行なわれる。これらは他地域の人達の目には活力として映ります。これは片貝人として誇りに思えることです。ただそれだけではダメだと言う声も良く聞かれますが、ただそれだけが他ではなかなかできないのです。たった一つでも誇りに思える物があるという事は幸福だと思います。誇りをもてるという事は愛着に継がります。愛着をもって町を見考えてゆけば素晴らしい町になると思います。それだけの誇りでも大切に思う人達が住む地域、人間味あふれる町、日本にそんな所があってもいいと思います。

3、本年の抱負

健康で初心を忘れずに頑張りたい。



意外に多い！片貝の事件

治安を守る駐在さんに　昨年一年を分析してもらう

片貝町の治安維持に必要不可欠であり、日頃から我々町民が世話になっている片貝駐在所。

しかし、片貝町の事件事故をあまり町民は分かっていないよう。そこで二人の〝駐在さん〟に昨年の片貝町で発生した事件事故について聞いてみた。意外に多い刑法犯々罪に小紙もびっくりしているところ。（※数字は昨年11月末現在）

質問1　片貝地区における刑法犯の発生状況は？

答え1　全部で24件。うち訳は自動販売機荒5件、自動車盗4件、玄関荒3件、さい銭盗2件、更衣室荒2件、器物損壊2件、車上狙い2件、事務所荒1件、オートバイ盗1件、工事場荒1件、強盗監禁1件。

質問2　被害防止策はどのようにすればよいか。

答え2　㈠戸締りの励行と確認、㈡夜間不在となる事務所に現金などを置かない、㈢自動車内に現金、貴重品を置かない、㈣さい銭や自動販売機の売り上げ金はこまめに回収する、㈤自転車やバイクは二重ロックする。

山西史雄巡査部長　工藤信敏巡査

質問3　片貝地区の少年非行の実態は。

答え3　片貝地区での万引き補導はないものの、他地区で補導された片貝在住少年は若干いた。暖かい時季には深夜徘徊少年が多く、喫煙で補導されたケースもある。

質問4　その対策はどうすればよいか。

答え4　非行防止の基本は、愛情を持って子供をしっかり育てること。家庭におけるしつけ、善悪のケジメをしっかり教えることが大切。非行に走った少年の家庭を見ると、家族間の話し合いの場がなかったり、基本的なしつけがなされていなかったり、社会のルールを破った時、きちんと注意していなかったケースが数多く見られる。もう一度、家庭の果す役割について考えてみることが大切と思う。

※万一、被害に遭った場合は、現場はそのままにして早期届け出を。

質問5　片貝町での交通事故状況は。

答え5　人身事故12件、物損事故55件。

質問6　事故防止対策はどうすればよいか。

答え6　片貝地区は狭い道路が多いので、ドライバーは速度をおとし、安全運転の励行を守ること。歩行者は正しい交通ルールとマナーを身につけ、事故に遭わないよう注意すること。夕暮れ時の外出の際は、明るい服装を心掛けること。正月は酒を飲む機会が多くなるが、飲酒運転は絶対にしないように！

ミニバスケット　夢に届かず

第19回BSN杯新潟県ミニバスケットボール大会（新潟県バスケットボール協会、新潟県ミニバスケットボール連盟、BSN新潟放送主催）が12月13・14日の両日、新潟市鳥屋野総合体育館で開催された。

片貝スーパーボーイズは長岡地区代表として出場し一回戦は下条ミニバスケットボールクラブを36対32で下し、準々決勝で3位になった女池グローリーボーイズに破れ、全国大会出場が夢と消えた。本大会で優勝し、全国大会出場を目標にして、練習に励んできた選手達は「来年こそは全国大会」と5年生、「中学で全国大会」と6年生、大会終了後固く誓い合っていたメンバーは次のとおり。

◇小比田俊樹、藤塚明史、吉井亨、吉原洋、小野塚昂平、石上崇宏、佐藤洋平、浅田大輔、吉田豊、中村公明、黒崎諒、大矢智史、小林孝広、山田貴広、安達勇二郎

バスケ・バレー強し

▼片貝中学校バスケット部は新チームで第9回中越中学新人バスケットボール大会兼第12回BSN県中学新バスケットボール大会予選会（長岡市バスケットボール協会主催）に優勝し、12月25、26の両日新潟市の鳥屋野体育館で行なわれた県大会に出場した。メンバーは次のとおり

▽小比田隼也、安部勇樹、山口透、小比田弘樹、高橋一明、浅田和穂、大矢諭志、佐藤佑一、小林亮太、目崎慎吾、市川慎吾、吉原佑、本田佑輔、山口直紀、吉田英

▼片貝中学校バレー部は長岡で開催された、第12回中越地区中学校バレーボール強化練習会兼第13回新潟県中学校バレーボール選抜優勝大会予選会（中体連など主催）で優勝し、1月18日、長岡市民体育館で開催される県大会に出場する。メンバーは次のとおり。

▽本田桃子、勝又裕子、安達奈美、太刀川佳江、吉原美香子、小林加奈、小宮渚、小宮梓、本田経子、藤塚千鶴子、小野塚愛、黒崎幸子

佐藤家の歴史（その二）

結東村へ施しをした佐平治（又太郎）は二十一代佐平治では？

前回（平成八年一月一日号）佐藤家の歴史「佐藤佐平治の救援活動」を掲載したが、このほど稲場の吉井和夫さんから以下の研究が寄せられた。それによると「やせかまど」の佐平治（又太郎）は年令的にみて二十一代とみたほうが辻褄があうのではないかとの疑問で、前回の片貝新聞の記述では忍字翁と施しをした佐平治（又太郎）とは同一人物ではないとしたものの、寛政十一年（一七九九）帯刀を許された父から家督を継ぎ（津南町史近世編第四章五八三頁）となっていたので単純に又太郎を二十代としたが、忍字翁と又太郎の間に一人人物を加えたほうがしっくり行くようにも思われる。吉井和夫氏も推定としているので今後は過去帳にあたるなどして確かめる必要があろう。何れにしてもこのように多くの関心を持つ人が現われ研究を進められることは望ましいことである。

以下吉井説を掲載する。

佐藤家三代のこと（やせかまど文中）

吉井和夫

昨今、片貝佐藤邸跡地の利用問題が論議されているが、私は先頃より約二百年前に書かれた郷土の文献、太刀川喜右衛門著の「やせかまど」の中に活写されている、三人の佐藤家代々の人達の話を興味深く読ませてもらっている。そして最近まであやまって伝えられて来たらしい事柄なども浮かび上がってきて、ついつい不遜ながらも拙文を呈する次第である。

去る平成八年一月の片貝新聞に吉原芳郎氏の「佐藤佐平治の救援活動」と題した貴重な記事が掲載されており、その中で結東の部落を救ったのは忍字翁と云われた佐平治ではなく、その次の代の佐平治（又太郎）であろうと結論づけている。私も「やせかまど」を読む限り全く同感である。しかし吉原氏もその又太郎が何年に生まれ何年頃没したかは良く分からないと書いている。「やせかまど」にもその事は書かれていないが登場してくる、それぞれの性格の違い、喜右衛門（文橋）とのかかわり方、表現の仕方などを何回も読み返して見ると完全ではないが、私なりの調査などを加えて或る程度分かって来る気がするのである。即ち天明の飢饉の時施しや善行のあった佐平治と後の天保時代、凶作・飢饉の時秋山郷結東部落其の他を救援した佐平治との約五十年間には、もう一人の人物定八（貞八）《注、佐平治を襲名しなかった》が存在していた。そしてこの定八こそ朝陽館設立時代活躍し、特に三代目塾長となる皆川葵園先生を招聘する為の文書を自ら書き、のちその文書を葵園先生が掛軸として生涯床の間に掛けて崇拝したと、文橋が書き記すほどの人であった。ではその定八は何年頃生まれたのだろうか。

忍字翁佐平治は生年と没年ははっきりしている。年表にも記したが享保八年（一七二三）～文化六年（一八〇九）行年八十七歳、その佐平治の子供は八人有ったと云われているが、佐藤家では度々長男には幼名貞八、或は定八と名付けており《注、昭和二十年代片貝町長を務めた佐平治も幼名定八であった》、其の時代の平均的結婚年令からして第一子は二十五歳位の差と考えられ、定八の生年は推定寛延元年（一七四七）頃と思われる。尚、「やせかまど」『学館の事』の中には文橋が親や兄のように思っていた、定八が亡くなった時の事は書かれているが年令は書いてない。しかし、仲使山遊山台の皆川葵園先生の碑文に依れば在郷十年、文化十年卒と刻んであり（一八一三）、定八が文書を書いたのはその十年前となり、享和三年（一八〇三）～文化四年（一八〇七）頃五十六歳～六十歳位で没していると思われる。親の忍字翁存命中で八十三歳位、又太郎は三十歳位であろうか。

「やせかまど」『学館の事』に出て来る貞八は忍字翁ではないかという云う人が多いと思われるが、文橋はその前の『老父母の事』のところで父の朋友には佐平治、玄節、伝右衛門、智厳などが居ったと述べている。又、『佐藤家寄特の事』の項でも佐平治と表現している。其の他諸々にも忍字翁については常に佐平治と書いている。しかし『学館の事』の中では貞八の名前が出て来る。何故なのだろうか？そこで一緒に出て来る人物の名前を考察すると幸右衛門とあるのは大塚伝右衛門の子に当たり、智響とは浄照寺の智厳の子である。従って父の友人の子に当たる人達の名が並んでいることになり、年令的に見てもこの貞八とは当然忍字翁の子の定八であろう。

次に又太郎（後の佐平治）は何年頃生まれたのだろうか。前述のように考え、定八の子とすれば二十五年の差とし、「やせかまど」『学館の事』の文中で定八末期の際には未だ隠居の佐平治が存命中であったから、善悪の道が良く分かるように又太郎、次七、与三郎などへ教示したと記しているから、又太郎は長男として生まれたに違いない。よって又太郎の生年は安永元年（一七七二）頃と思われる。そして又太郎が家督を継いだと云われている寛政十一年（一七九九）は又太郎二十八歳位であったと推定される。

その後佐藤新宅（分家伊丹屋雄四郎、たづ子夫婦《又太郎の長女と婿》の住宅が完成した天保十年（一八三九）又太郎は六十八歳位であったと思われる。唯正確なものは檀那寺の過去帳などで解明するしかないであろう。

次に推測を含めた私なりの年表を上段に記す。

以上

佐藤家19代・20代・21代略年表　平成９年11月11日　吉井和夫作成

享保８	1723	佐藤19代佐平治生れる。後忍字翁又は慈善居士と呼称される。
13	1728	太刀川此橋（俳号）生れる。やせかまど著者喜右衛門（文橋）の父
寛延元	1748	佐藤20代定八生れる（推定）
宝暦９	1759	太刀川喜右衛門生れる。此橋の五番目の子として
安永元	1772	佐藤21代又太郎生れる（推定）
８	1779	太刀川此橋没す。行年52才（文橋21才）その後１年間は浦村の庄屋又左衛門が仮庄屋役を勤め22才より正式の庄屋となった
天明元	1781	朝陽館設立の為幸右衛門、貞八（定八）、玄節、智響、喜右衛門ら活躍
３	1783	大飢饉となる。翌年も続く
５	1785	佐平治（忍字翁）飢饉の際多大の施し善行有り公儀より苗字・帯刀許さる
寛政９	1797	朝陽館２代目塾長藍沢北溟没す。在館９年余り
11	1799	佐藤家21代又太郎家督を継ぐ。（推定28才位）
享和２	1802	太刀川、観音堂を建立
３	1803	20代定八が文書を書いて江戸より皆川葵園招聘（朝陽館３代目塾長）
文化６	1809	文橋やせかまど執筆始める。 忍字翁佐平治没す。行年87才
10	1813	皆川葵園没す。「やせかまど学館の項」に又太郎は皆川先生の妻子は国へ帰し学館は潰してしまい等と云って困らせた。祖父の先代佐平治や定八が生きていたらこんなことはしなかったろうと村中話していたと書いている。
12	1815	佐藤家21代佐平治（又太郎）前々から貯蔵してあった籾1200俵、稗800俵その他多数を救済用として公儀に認めてもらい翌年苗字・帯刀許された。
13	1816	佐平治（又太郎）片貝村への陣屋誘致運動の費用割当に対し異を唱えて村役と争い困ったものだと文橋が嘆いている。
文政２	1819	一王子権現拝殿造立工事に伴い社前献水井非常水論の事として、やせかまどに佐平治（又太郎）が反対運動などして工事の邪魔をしたと非難
11	1828	この年より天保にかけて三年続きの不作となる。
12	1829	太刀川喜右衛門（文橋）没す。行年71才
天保元	1830	佐藤佐平治（伊丹屋）酒造労務者延べ5526人とある。（小千谷市史）
３	1832	佐平治（又太郎）大飢饉の秋山郷結東村の救済に乗り出し五十両の（自分が出資して自分が借りた）利息（年7分）を其の後135年間、結東村に支払う
４	1833	引続き凶作の為更に結東村へ援助物資を送る。
７	1836	この年も不作で秋山郷を含む各村々へ施しを行なった。 佐平治（又太郎）灘より杜氏六右衛門ら四人を招いた。 天保年間佐藤家酒造米高は1000石を超え、天保5年には1500石以上となり其の後10年間常に千石以上であった。因みに同じ頃小千谷は酒造家七軒合計で300石、又朝日の久保田（朝日山の前身）は30石（市史、朝日酒造）
10	1839	佐藤の新宅が竣工し分家伊丹屋雄四郎となる。（先年又太郎の長女たづ子が解良家より雄四郎を婿に貰ったが又太郎の長男が成長したので分家することになった）佐平治（又太郎）68才位。
11	1840	蒲原の解良家より一王子祭りの花火見物にやって来た。新宅の家を見たり祭りの様子を書いた穎園日記が解良家に残されている（浅田壮太郎）

佐藤家に関する他の文献・資料

吉原芳郎

佐平治家は先祖から数代にわたって凶作時の困窮者救済に努め、父佐平治は天明四年に飢人一七〇〇余人へ、秋まで毎日粥・雑炊を給し、代官から一代帯刀・永代苗字を許された。寛政十一年現佐平治が家督を継ぎ、天保五年現在で持高一七〇石余、家内四五人、農業の間に酒造業を営み、父祖に劣らず困窮者への施行を心がけている。なかでも父の存命中から貯穀に努め、文化十二年には籾一二〇〇俵、昆布一万把、囲い味噌桶六本、干葉、干大根の俵無数を公儀へ差し出した。代官布施孫三郎は佐平治家に一泊して籾蔵、大工小屋などの貯穀を検分（『小千谷市史』上）し、翌年には一代帯刀を許している。（津南町史より）

この文中、父佐平治は天明四年に一代帯刀、永代苗字を許された。とあるので明らかに佐平治忍字翁を指している。さらに現佐平治が貯穀に努め文化十二年（一八一五）代官の検分を受け、文化年間より外丸庄屋を勤めた福原新左衛門の日記（辰日記）によると、天保三年正月十八日村を出て佐藤家に立寄っているので、この年から金五十両の施しとなりさらに翌年の困窮者救済へとつながったものと思われる。しかしこの津南町史の出典は何によったのか不明だが、不思議にはっきりと父と子として取扱っている。

越後野志下巻四三七頁、片貝佐平治（忍字翁）について次のような記述がある。

「……年四十七而妻死、不再娶、又不近婦女、有子八人、四人早世、四人皆似父性質篤実也、……」

忍字翁の妻女は四十七歳で亡くなり、その後再婚もせず、また婦女を側近くに近づけることもなかった。子供は八人恵まれたものの四人は若くして亡くなり、四人は健在で、性質も父親に似て皆正直で親切である。

妻女は四十七歳で亡くしたようだが、この文章からだけでは妻の没年は不明であり、子供たちもそれぞれ年令・男女別とも推測以外方法がなく確定は難しく、今後の研究に委ねなければならない。

「温故の栞」には三島郡片貝村安達基一郎寄稿として忍字翁佐藤佐平治翁小伝が載せられており、この中で

「……又志を郷党子弟の教育に傾け儒者葵園先生を聘し私塾を開き、遠近より子弟の来り教授を受けるものあれば相当に衣食を給せしと云う……」

との記述はあるものの、同時に

「魚沼郡妻有荘の山奥信濃界秋山入の一郷は当国一の僻陬（しゅ）にて其頃へは人敵猿かとの評判ある処なりしが、凶年打続き饑饉甚しく人民死を俟つの風評を聞き、翁は惻隱の情に堪ず、米粟数十石、昆布数十駄を遥々人馬にて運送し其死を救助せし故、今に至るまで同郷の人民は神仏の如く崇敬し居ると云う……」

と、これは明らかに佐平治又太郎と混同しており、近々数十年の間でしかないのにこうも記憶はあやふやなものか、従って前の文章皆川葵園の母のも信じていいものかどうか疑問になってくる。

また、三島郡誌（片貝の部は大塚確太郎先生らしいが）文章は「温故の栞」とは若干違うものの、ほぼ同内容が記載されている。

佐藤家からの利息金によって作られた結東村の江筋

結東村が役所に提出した古文書

これは佐藤家が結東村に施した五十両の金の使い方について脇野町代官所へ提出したもので、結局は適当な借り手がみつからず、さりとて下手な人に貸して元も子もなくしては虻蜂取らずになりかねないので、吉井和夫氏の年表にあるように、結局金を出した佐藤家がその金を借りたことにして、その金利年七分を結東村へ百三十五年間毎年支払ったのである。

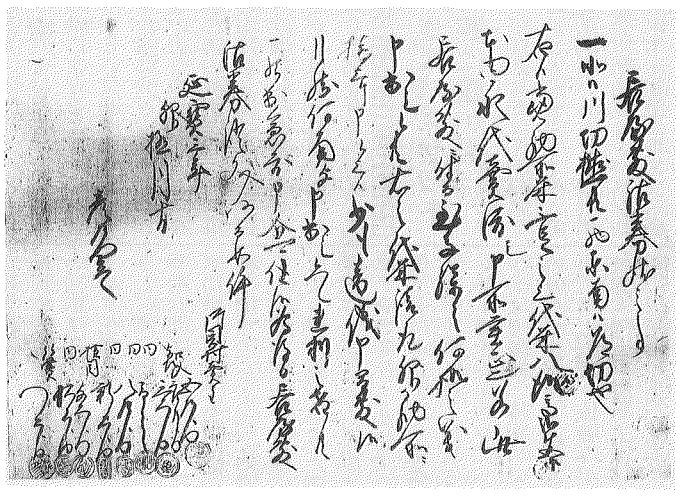
原文は漢文で書かれているが読みやすいように書き改めた。

天保三年
三島郡片貝村
佐藤佐平治殿より
結東村へ合力金一件

恐れながら書き付けを以てお届け申し上げ奉り候、

当御代官所越後国魚沼郡結東村の義、百九石余、家数百拾五軒、村立拾弐ケ所に之有り、三国峠へ続く極めて深山谷谷（幽谷）にて、隣村々へは道法（のり）三、四里隔て往古より疱瘡、痲疹入らぬ程の村柄、殊に極薄地にて稲作、麦作之れ無く粟、稗、菜、大根少々作付いたし候得共例年九月より四月下旬まで都而雪中に罷り在り、夏分も谷間、沢筋など雪消払い申さず其の上七月より霜降り候間、作物実法の儀稀にて平日食物は栃の実、楢の実、藤の根、その外山中名も知らぬ草木相用い、一体食物乏しき故男女共柔弱にて農業の稼ぎも行き届かず、当日の凌ぎのみに難儀仕り他村の縁組は勿論、平日相交わり候義之れ無く鰥寡（かんか）孤独の窮民多く近き村々へ袖乞に罷り出候得共、村内五百人余の者共、疱瘡、痲疹、いたし候もの之れ無く近村他国へ適き奉公、稼ぎ等に罷り出、疱瘡、痲疹相煩い候得ば一人も助かり候もの之れ無く極めて難渋の村方に御座候ところ、去る子年より引き続き三ケ年の違作にて粟、稗、菜、大根も更に実法申さず、其の上去る寅年より近くの村々疱瘡流行り袖乞も相成りかね候者数多に之れ有り、村内救け合又は近村より夫食等度々施し呉れ候得共、多人数の義故永く取り続き候義も行き届かず、当春に至りては暮し方相成り兼ね候もの多く、必至と難渋仕り候に付、同国三嶋郡片貝村佐藤佐平治差し出し御貸付け利金下し置かれ候様願い上げ奉り候処、願の通り金拾両当三月中御手当て成し下し置かれ、当節の露命を繋ぎ一同有難き仕合せに存じ奉り候、然る処前文にも申し上げ奉り候通り、当村の義極めて難渋にて此の上取り続き方仕方之れ無く候ては一村退転致すべき体に御座候処、右佐藤佐平治義困窮の趣承るに及び、追々心掛け相貯え候由にて金五拾両当村窮民救いの為と此の節手当て致され誠に前代にも聞き伝え之れ無く有難き御儀にて村内一同相悦び打ち寄り相談仕り候処、当節銘々割り渡し候はば格別の救いにも御座候得共、大金の御手当て此の節限り、遣い切り候段嘆かわしき次第につき、末永く相続仕り候様一同申し合わせ、右五拾両の分以来当村窮民救いの為相備え置き、隣村外丸村庄屋福原新左衛門義兼て当村諸世話役もいたし候儀故、同人立合近郷最寄り村々の内慥成るもの へ貸付け、年々取り集め其の時々、暮し方相成り兼候もの共へ割渡し仮成り相凌ぎ候年柄は積金いたし置き、夫食等買い整い少々宛ても米穀を食物に相用い候はば自然と人勢も相備い、素より山中手広の儀につき追々田畑も切り開き候様相成り候はば、一村永続の基と偏に御恩沢の程有難き仕合せに存じ奉り候、猶年々利息金割渡し方は其の時々申し上げ候様仕る可く候、之れに依り此の段御届け申し上げ奉り候、以上

天保三年辰四月
越後国魚沼郡結東村
百姓代　兵　助
与　頭　宇左衛門
庄　屋　喜左衛門
同郡外丸村
庄　屋　新左衛門
和田主馬様
脇野町
御役所



佐藤家が延宝三年（一六七五）現在の地に移り住むようになったときの居屋敷売渡し証書